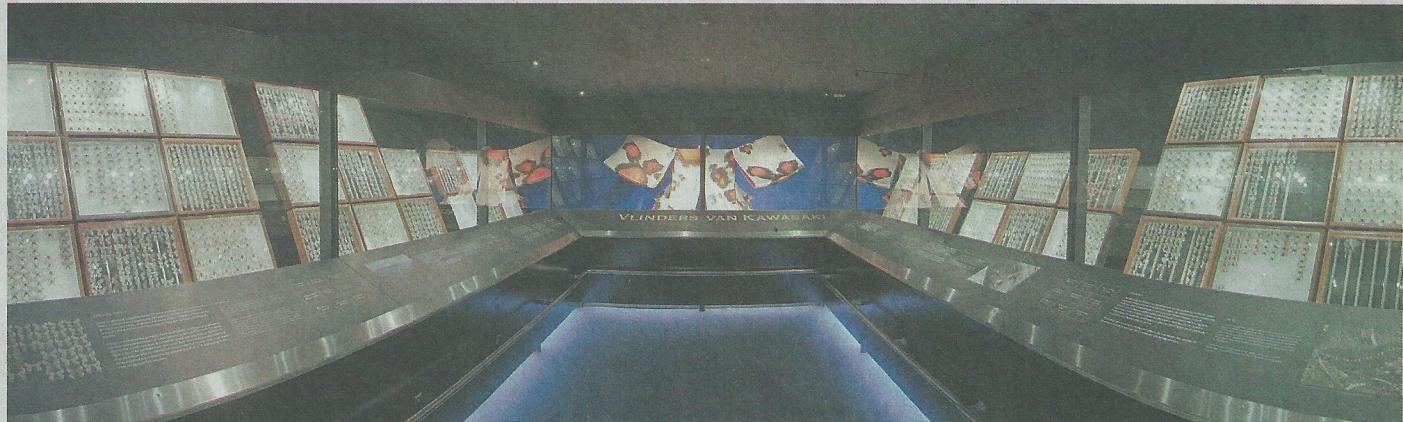
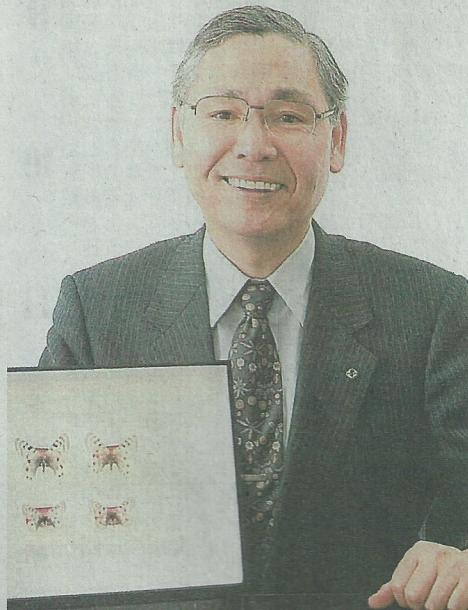


オランダ・ライデンの国立自然史博物館で開かれている特別展



大分市の研究家 故川崎裕一さん採集



チヨウの研究家として知られた故・川崎裕一さん。世界中に研究仲間がいたという

小学生の時の自由研究をきっかけに、チヨウにのめり込んだ。海外にも出向いて採集し、標本を作製。世界各地から取り寄せた標本を顕微鏡で詳しく調べたり、分布や進化などの研究にも力を注いできた。

1995年には、南チベットのチヨウを研究中、新種であることを発見。力宏さんの名を付け「リキヒロウスバアゲハ」として発表した。他にも新亜種数匹の

現地の専門家も驚き

オランダの博物館で特別展

【東京支社】生物研究などで世界的に知られるオランダ・ライデンの国立自然史博物館で、チヨウの研究家として知られた大分市の故・川崎裕一さん(享年57、佐伯建設前会長)が集めた標本の特別展が開かれている。現地の専門家らは「日本にこんなコレクションがあったとは」と驚きの声を上げているという。

アゲハチヨウの一種で南チベット地域に生息する「パルナシウス属」の標本300箱以上を昨年5月、

2010年に死去した川崎

たとい

う。

さんは生前、「いつか標本

をライデンに寄贈して後世

に役立たい」と話してい

る。アゲハチヨウの模様をあしらった着物のモニュメント

も展示している。

大使館を通じて博物館に贈った。長男の力宏さん(29)によると、300箱以上を昨年5月、2010年に死去した川崎たとい

う。

さんは生前、「いつか標本

をライデンに寄贈して後世

に役立たい」と話してい

る。アゲハチヨウの模様をあしらった着物のモニュメント

も展示している。

チヨウの価値ある標本

発見といった成果を挙げ、専門書も発行している。

博物館では温度や湿度を管理した環境下で標本を保管。特別展は3月22日から